

はじめに

本書 *English Stream: Elementary* は、ご好評を頂いている *Reading Stream: Elementary* の題材を基盤にしつつ、そこに発信と技能統合の要素を新たに取り入れ、英語運用能力を総合的に育成していくことを企図して編まれた教科書です。

本書の中核となる **Reading** の読み物（各 Unit 300 語程度）は、5名の英語ネイティブ話者による書き下ろしテキストを採用し、このレベルの学習者が出会うと考えられる様々なジャンルで書かれた、興味をそそるトピックの文章で構成するようにしました。また、テキストの語彙は、各種語彙リストを参照して、2,000語レベルに設定されています。

Unitの冒頭では、それぞれのUnitの目的（めあて）が明示されており、到達点が見えるような工夫がなされています。その後の **Pre-reading tasks A** および **B** では、読み物と関連する話題について、自分の考えを短く述べる活動や、他の人の意見を聞く活動、さらにはクラスメイトと意見を交換したりする活動が導入されています。英語でのやり取りを通して、背景知識の活性化と、意見交換への積極的姿勢の涵養が図れるよう活動をデザインしてみました。

Reading の本文テキストは、重要語句を太字にするだけで、側注など注意を散漫にする要素を末尾にまとめ、読むことに集中できるようにしてあります。また、**Notes** では、2,000語レベルを超えた語彙や固有名詞などが、リーディングの際に目障りにならないように提示されています。なお、**Reading** の末尾には、「読み方のコツ」を簡潔かつ明示的に提示しました。これを通して、学習者が読解ストラテジー（読み方）への認識を高め、様々な読み方にチャレンジしてくれるよう、期待を込めて作成しました。さらに、本文テキストを読み上げた音声CDも用意されていますので、シャドーイングや音読練習に活用されることをお勧めします。加えて、学習者の自学用に、金星堂のウェブサイトからダウンロードしてお使いいただける音声ファイルも用意しました（左ページ下の説明をご参照ください）。

本文テキストを読み終わると、内容理解から発信へと深化していく **Post-reading tasks** で学習することになります。まず、**Post-reading tasks A** では、テキスト構造の理解を助けるグラフィック・オーガナイザーを使って学びます。グラフィック・オーガナイザーの空所を埋めていくことで、テキスト構造の見取り図が現れてくる仕組みになっています。次に、**Post-reading tasks B** では、T/F形式で内容理解に間違いがないかを確認します。T/Fの2択では偶然に正解する

危険性も上がるため、ここでは本文中の根拠となる文章を指摘する形式を採用しています。この **Post-reading tasks A** と **Post-reading tasks B** の構成は、テキストを一回だけ読むのではなく、概要から細部へというように視点を変えて、複数回読むことを奨励する意図のもとに作られています。

締めくくりの **Post-reading tasks C** では、発信につながる様々な活動が提供されています。段階を追いながら、自分が見聞きしたものや自分の考えを、自らのコトバ（英語）で表現する力が養えるように活動をデザインしてみました。いきなり英語で表現するのは困難でも、**Pre-reading tasks** で背景知識を活性化し、意見を交換する姿勢を養い、**Reading** と **Post-reading tasks** で内容知識を入れ、表現を学んだ後では、ハードルも下がるはずです。無理だと諦めずに、この **Post-reading tasks C** を十分に活用して、各 Unit のまとめとしての「発信する力」を伸ばして行って欲しいものです。

以上のように、様々な工夫をこらした本書での学習を通して、学習者のみなさんが英語運用能力をバランスよく伸ばしていかれることを、編著者一同、祈ってやみません。

最後になりましたが、本書の完成にご尽力いただきました金星堂編集部の方に、心よりお礼を申し上げます。

2019 年初冬

竹内 理

住 政二郎

藪越 知子

植木美千子

Brent Cotsworth

CONTENTS

UNIT 1

To Drive or to Ride?

トピックセンテンスとパラグラフの構造を理解する 11

UNIT 2

Help Yourselves

原因と結果を述べる 15

UNIT 3

What I Learned from Fay

経験を語る（物語） 19

UNIT 4

Ways to Help Others

分類しながら説明する 23

UNIT 5

Can Fish Fall from the Sky?!

報告する（時事ニュース） 27

UNIT 6

How to Prepare for a Presentation

手順を説明する 31

UNIT 7

International Date Line

事実を時系列に沿って説明する 35

UNIT 8

What Is Friendship?

定義を示して例示する 39

UNIT 9	Entering a Photo Contest	
	効率的に情報を伝える (e-mail)	43
UNIT 10	Getting Money for a Big Project	
	比較する	47
UNIT 11	Accepting the "Salesperson of the Year" Award	
	スピーチの文体に慣れる	51
UNIT 12	Written Art	
	コミュニケーションのスタイルを理解する	55
UNIT 13	Life Advice Q & A with Dr. Joyce Green	
	目的をもって尋ねる (人生相談)	59
UNIT 14	The Economy Is Strong, for Now	
	経済記事を読んでグラフを完成させる	63
UNIT 15	Not Hearing a Gorilla	
	報告する (科学)	67
	記録シート	9

次の英文を読みましよう (太字は本 Unit の重要語句です)。

To Drive or to Ride?

1 If you live in a big city, you may find that it is better to use public transportation than to own a car. This is because trains and buses are cheaper, safer, and better for the environment than cars. First, owning a car is **expensive**. You must **pay** not only for the car, but also for the fuel, repairs, and parking.

5 When all the costs are added up, public transportation is almost always much **cheaper**. Second, taking public transportation is safer than driving a car. Although bus and train accidents do happen, they are rare, and they do not often result in **serious** injury. However, car accidents happen every day, and they sometimes cause serious injury or even death. Finally, buses and trains

10 use far less energy than cars. This helps to keep the air clean. Although most cars use less fuel than buses, they often **carry** only one person. One bus, on the other hand, can carry 75 people or more. Energy use **per person** is much less for people who ride the bus. Trains are even more efficient, carrying hundreds of people **at a time**. Therefore, if you want to save money, stay safe, and save

15 energy, public transportation is the way to go.

2 If you live in the countryside, however, a car might be a better choice. Public transportation only **makes sense** in areas where many people live and work. **What if** you can't get to a bus or train stop within a few minutes? What if the bus or train cannot get you to where you are going within a short period of

20 time? In such cases, a car makes more sense. Also, public transportation is not **energy-efficient** if only a few people use it. This is why you will not see as many buses or trains outside of big cities.

Notes

l. 1: public transportation 「公共交通機関」 l. 4: fuel 「燃料」 l. 5: add up 「～を加算する」 l. 7: rare 「めったにない、まれな」 l. 8: result in 「～の結果となる」 l. 8: injury 「怪我」 l. 13: efficient 「効率的な」

C

パラグラフは、多くの場合、主題のトピックセンテンスから始まり、その後トピックセンテンスを支える複数のサポートセンテンスが続き、まとまりのある意味を構成します。サポートセンテンスでは、主題を支持する理由や例などが述べられます。各サポートセンテンスが自然につながっていることも大切です。パラグラフの最後は「まとめ」にあたるコンクルーディングセンテンスで終わります。以下の例で確認してみましょう。

e.g.

Tom is a very hardworking student. He wakes up at five every morning and studies two hours before class starts. He always hands in his reports and always gets As. We believe that he will receive a scholarship from the university.

1. 以下のトピックセンテンスを支持するサポートセンテンスを2つ日本語で書きましょう。コンクルーディングセンテンスは変更してもかまいません。

トピックセンテンス：海外旅行に行くことは、人生を豊かにしてくれます。

サポートセンテンス A： _____

サポートセンテンス B： _____

コンクルーディングセンテンス：（こうした経験は、将来のために自信になるでしょう。）

2. 1 で書いたサポートセンテンスを英語にして、パラグラフを完成させましょう。コンクルーディングセンテンスは変更してもかまいません。

Topic sentence: Traveling abroad makes our life richer.

Supporting sentence A: _____

Supporting sentence B: _____

Concluding sentence: (These experiences will give us confidence in the future.)
